

ファインケミカル事業とSDGs

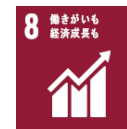


1.ファインケミカル事業とSDGs

ファインケミカル事業の概要

- **幅広い分野に原材料を供給**
 - ✓ 当社のファインケミカル事業は、世界の化学メーカーと取引を行うB to Bの事業を行っています。
 - ✓ 当社がつくるファインケミカル製品は、様々な分野で、取引先の企業が販売する商品の素材などで使用されており、世界の幅広い産業活動を支えています。
- **主な分野**
 - ✓ グリニャール反応を中心とする独自の製造技術を活かし、樹脂、医・農薬、電子材料などの分野で使用される、高純度・高機能・高付加価値の素材・原料を提供。産業の発展と人々の豊かな暮らしに役立っています。
- **得意技術は「グリニャール反応」**
 - ✓ 有機合成反応の一つ「グリニャール反応」は、化合物と化合物を狙い通りに結合させる“高性能の接着剤”のような存在として、多彩な用途に利用されます。
 - ✓ この反応技術により、高品質な製品を効率よく低コストで造ることができます。
 - ✓ しかしながら、反応時の発熱の制御が難しいため、大量合成を行っている企業は多くありません。
 - ✓ 当社は、創立以来培ってきた有機金属化合物の合成技術と経験にもとづいて「グリニャール反応」を活用。この反応技術では他社の追随を許しません。

SDGsとの関連



8働きがいも経済成長も(※8.2)

9産業と技術革新の基盤をつくろう(※9.5)

- ✓ 消費者の目には直接見えませんが、様々な分野で役立つファインケミカル製品を供給し、経済成長、技術革新を下支えします。

(参考)当社ファインケミカル製品の分野と主な用途

分野	主な用途
樹脂	硬化促進剤、合成触媒用原料 等
医・農薬	医農薬中間体・合成用原料 等
電子材料	液晶原料、フォトレジスト原料 等
その他	触媒、工業用防腐防カビ剤 等

- ✓ 医・農薬の分野にも製品を供給し、「2飢餓をゼロに(※2.1、2.3、2.4)」 「3すべての人に健康と福祉を(※3.d)」のSDGsにも取り組んでいます。

2.「研究開発」とSDGs

—新技術を開発し続ける～Challenge to Innovation—

研究 開発

□ ファインケミカル製品の研究開発

- 幅広い産業社会の技術革新、経済成長に貢献できる製品・技術の開発を目指して、日々研究を行っています。

□ 安全性、高品質、生産性の追求

- 安全性の追求はもちろんですが、当社の優位性は、グリニャール反応などの有機合成技術の活用により、収率良く品質の高い製品を造ることができる点にあります。
- さらに低コストで高品質の製品を造るべく、グリニャール反応などを用いた合成方法と精製方法の研究に取り組んでいます。
- めまぐるしく変化する時代、将来を見据えて、当社が世界に誇れる技術をもって、産業社会の技術革新、経済成長を下支えします。

□ 研究方法

- 研究開発は、当社独自で進めるものだけではありません。産官学の共同開発(パートナーシップ)にも取り組みます。
- 当社の「受託製品」は、単なる受託製造ではなく、研究開発の段階から、顧客のニーズにきめ細かく対応し、顧客と共同開発して製品を造り上げていきます。

SDGsとの関連



- 8働きがいも経済成長も(※8.2)
- 9産業と技術革新の基礎をつくろう(※9.5)
- 14海の豊かさを守ろう(※14.1)
- 15陸の豊かさも守ろう(※15.4、15.a)



医・農薬の分野の研究開発にも注力。
「2飢餓をゼロに(※2.1、2.3、2.4)」 「3すべての人に健康と福祉を(※3.d)」のSDGsにも関連しています。

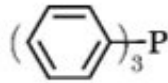


17パートナーシップで目標を達成しよう(※17.17)

3「自社製品」「受託製品」とSDGs

TPP

(Tri Phenyl Phosphine)

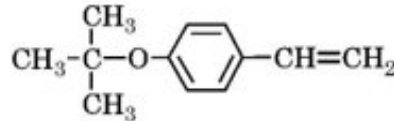


【特長】

- 有機リン化合物の一種であるTPPは、ビタミン合成や医薬原料の合成、また触媒配位子、エポキシ樹脂硬化促進剤としても使用され、顧客からのニーズが高く利用シーンの多い化合物です。
- 特にリン系エポキシ樹脂硬化促進剤としては、硬化物の電氣的信頼性に優れることから、長年にわたって半導体封止材に使われ続けています。
- 世界需要は5000トン以上。ここ数年増加傾向で、当社がその約2分の1のシェアを持っています。

PTBST

(p-tert-Butoxystyrene)



【特長】

- フォトレジスト分野で広く使用されるスチレン系機能性モノマーで、この分野で使用されるエキシマレーザーの「KrF」にマッチする化合物です。
- 急速に進化し続ける半導体業界において、30年以上の長きにわたって、高いニーズを保ち続けています。
- 次世代レジストといわれる「ArF」が登場したことで、「KrF」が姿を消すことが危惧されましたが、IoTの時代の流れの中で、新たな技術として「KrF」が使用されることとなり、PTBSTは使用量を増やしています。

自社
製品

受託
製品

受託製品

- 「受託製品」とは、顧客である化学メーカーからのニーズにきめ細かく対応し、品質や価格などの面で要望に沿った製品を共に造り上げる、いわゆる「オーダーメイド製品」のことです。
- 当社では、長年の技術・ノウハウの蓄積をベースとして、顧客との緊密なリレーションのもと、広範な分野にわたり製造を受託しています。
- 中でもグリニャール反応技術は、世界でも有数の技術・規模により取引先からの幅広いニーズに応えています。



SDGsとの関連

- TPPは広範な分野で、またPTBSTは進化を続ける最先端の分野で使用され、世界の経済成長、技術革新を支えています。
- 当社は、広範な分野で“受託製品”を受注。単なる製造受託ではなく、顧客のニーズにきめ細かく対応し、顧客との共同開発で製品を造り上げていきます。
- TPPおよび受託製品は医薬分野でも使われ、「2 飢餓をゼロに(※2.1、2.3、2.4)」「3 すべての人に健康と福祉を(※3.d)」のSDGsにも関連しています。



8 働きがいも経済成長も(※8.2)
9 産業と技術革新の基礎をつくらう(※9.5)
17 パートナリーシップで目標を達成しよう(※17.17)

